

埼玉県本庄市にある競進社は、1894年に高山長五郎(1830-1886)の弟、木村九蔵(1845-1898)が創設した養蚕学校である。九蔵は木村家の娘と結婚後、木村家の養子となった。兄と同様に、彼は養蚕技術を向上させたいと考えていたので、両者は健全な競合相手として良い関係を維持した。兄弟は互いの研究情報を共有し、九蔵は「一派温暖育」と呼ばれる技術で、長五郎の技術と似ているが、より温度管理に重点を置いている技術を開発した。

競進社は養蚕業や繭展を主催する養蚕業アカデミーとしてスタートしたが、1897年に研究施設となった。1979年に移築、改装されたが、当時のままの屋根瓦で、建物は当時の形を忠実に残している。1階には、古いシルク織と巻き取るリールが並ぶ小さな博物館になっており、創設者についての展示もある。また、当時採用されていた暖房、換気システムを展示している蚕飼育室がある。地元の高校には最初の競進社の学校までさかのぼる学術系譜があるので、競進社の教育的遺産の当時からこれまでに追うことができる。現在の高校の生物学カリキュラムには、その地域の伝統的な絹生産の認識から、養蚕に関するレッスンが含まれている。